

高校教員「進路指導が困難」9割以上 要因は「入試の多様化」がトップに

—高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016 進路指導編—

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長：山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）では、高校の進路指導・キャリア教育の現状を明らかにするため、全国の全日制高校の進路指導主事に対して進路指導の困難度、キャリア教育の進捗状況等についての調査を実施いたしました。調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

進路指導について

■ 91.9%の教員が、進路指導を「難しい」と感じている。

前回調査(2014年) から引き続き高止まり。→P3

■ 困難の要因（上位3項目）は「入試の多様化」がトップ（前回4位から上昇）。

→P4~5

■ 進路指導の難しさの要因（上位3項目）

	2016年	2014年	2012年
1位	入試の多様化	進路選択・決定能力の不足	家庭・家庭環境の悪化： 家計面について
2位	教員が進路指導を行うための 時間の不足	教員が進路指導を行うための 時間の不足	進路選択・決定能力の不足
3位	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	学習意欲の低下

- ・ 難しさを感じる要因は、前回調査4位の「入試の多様化」（25.7%）がトップ。
- ・ 前回調査1位の「進路選択・決定能力の不足」は3位、2012年調査1位の「家計面について」は5位。
景況感については回復の兆しを感じさせる結果である一方で、入試制度の多様化が進路指導に影響を与えている。

■ 大学・短期大学などに期待することは、「入試の種類の抑制」「わかりやすい学部・学科名称」で変わらず、「実際の講義・研究に触れる機会」が増加。→P7

- ・ 大学・短期大学などに期待することについては、1位が「入試の種類の抑制」（39.3%）、2位には「わかりやすい学部・学科名称」（36.6%）が入り、入試制度や学部・学科の種類が増加・複雑化している現状が進路指導にも影響していることが明らかとなった。

将来社会で必要となる能力と、現在高校生が持っていると思う能力

■ 将来社会で必要となるにもかかわらず、 現在高校生に備わっていないと感じている能力は、“主体的に行動する力”。→P8

将来社会で必要とされると思う能力

- 1位 **主体性**(60.3%)
- 2位 **課題発見力**(44.1%)
- 3位 **実行力**(35.3%)

現在高校生が持っていると思う能力

- 1位 **規律性**(51.6%)
- 2位 **傾聴力**(32.3%)
- 3位 **柔軟性**(22.4%)

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016」リクルート進学総研調べ”と明記ください。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

- 調査目的：全国の全日制高等学校で行われている進路指導・キャリア教育の実態を明らかにする
 - 調査期間：2016年10月6日(木)～10月28日(金)投函締切（11月4日(金)到着分まで集計対象）
 - 調査方法：質問紙による郵送法
 - 調査対象：全国の全日制高校の進路指導主事4,807人
 - 集計対象数：1,105人（回収率23.0%）
- ※本調査は隔年で実施しております

«以下参考»

【進学センサス2016】 P 6 に参考値として掲載

- ・ 調査期間：2016年3月18日(金)～4月11日(月)投函締切
 - ・ 調査方法：質問紙による郵送法
 - ・ 調査対象：2016年に高校を卒業した全国の男女50,000人
 - ・ 有効回答数：4,424人（回収率8.8%）
- ※本プレスリリース該当「進路指導時に進学先として重視する点」は、大学進学者の3,051人が対象

【高校生価値意識調査2015】 P 8 に参考値として掲載

- ・ 調査期間：2015年9月11日（金）～9月17日（木）
- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 調査対象：2015年9月時点の高校1～3年生のうち、進学希望者
- ・ 有効回答数：1,437人

【高校生と保護者の進路に関する意識調査2015（保護者）】 P 8 に参考値として掲載

- ・ 調査期間：2015年9月24日（木）～10月28日（水）
- ・ 調査方法：高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼・回収
- ・ 調査対象：高校2年生の保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校26校
- ・ 有効回答数：1,584人

【回答校プロフィール】

■ 高校所在地（全体／単一回答）

(%)

	調査数	北海道	東北	北関東・甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答
2016年 全体	1105	6.2	9.2	13.9	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	11.8	1.1
2014年 全体	1140	7.1	11.4	11.8	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	12.5	0.8
2012年 全体	1179	7.5	10.3	11.5	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	12.9	0.5

■ 高校タイプ(全体／単一回答)

(%)

	調査数	普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校	その他	無回答
2016年 全体	1105	56.6	20.2	6.2	1.2	5.2	3.3	0.2	2.8	3.4	0.9
2014年 全体	1140	54.6	20.1	5.2	1.1	5.9	3.2	0.4	2.4	5.4	1.8
2012年 全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2

■ 大学短大進学率(全体／単一回答)

(%)

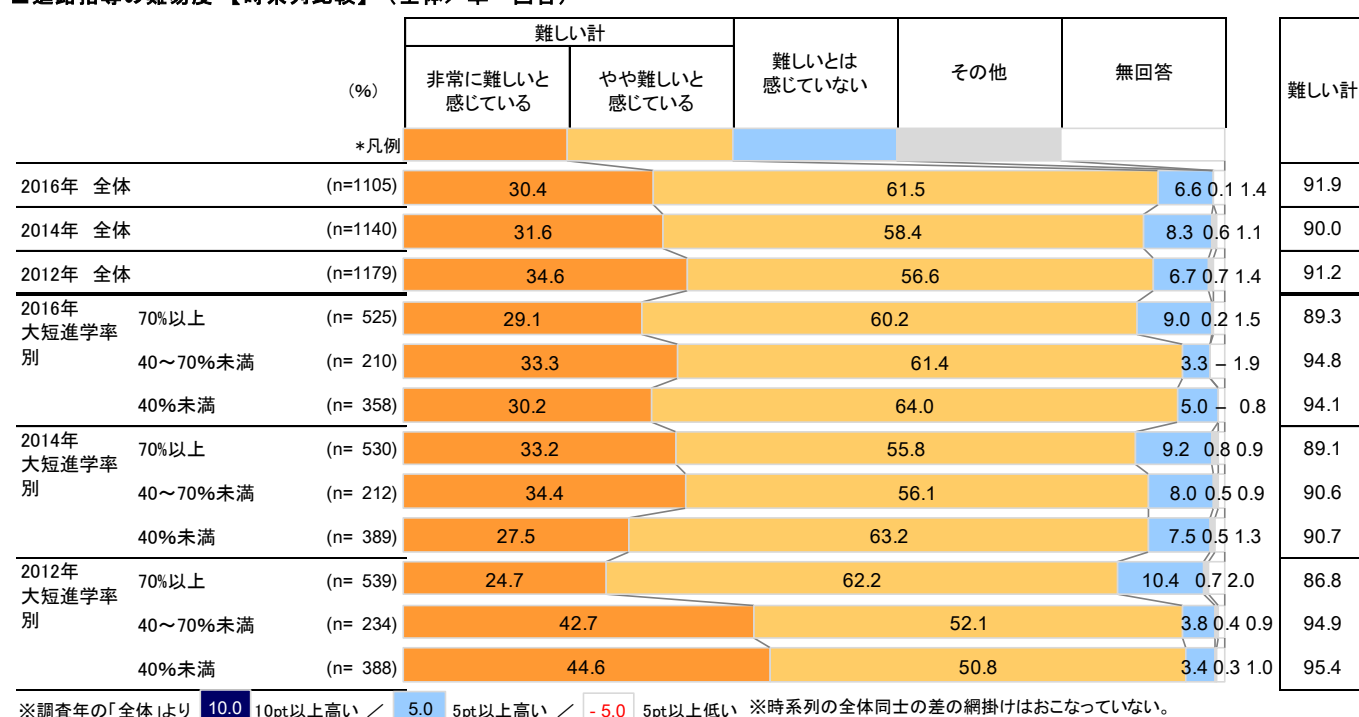
	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2016年 全体	1105	47.5	19.0	32.4	1.1
2014年 全体	1140	46.5	18.6	34.1	0.8
2012年 全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5

【進路指導の難しさに対する考え】

■9割以上の教員が、進路指導を「難しい」と感じている。

- ・高校における進路指導の難しさについて、「難しい」と感じている割合は91.9%に上り、前回調査（2014年）の90.0%から高止まりとなった。
- ・「非常に難しいと感じている」教員は2012年から2回連続で減少している。
（2012年34.6%→2014年31.6%→2016年30.4%）

■進路指導の難易度【時系列比較】（全体／単一回答）



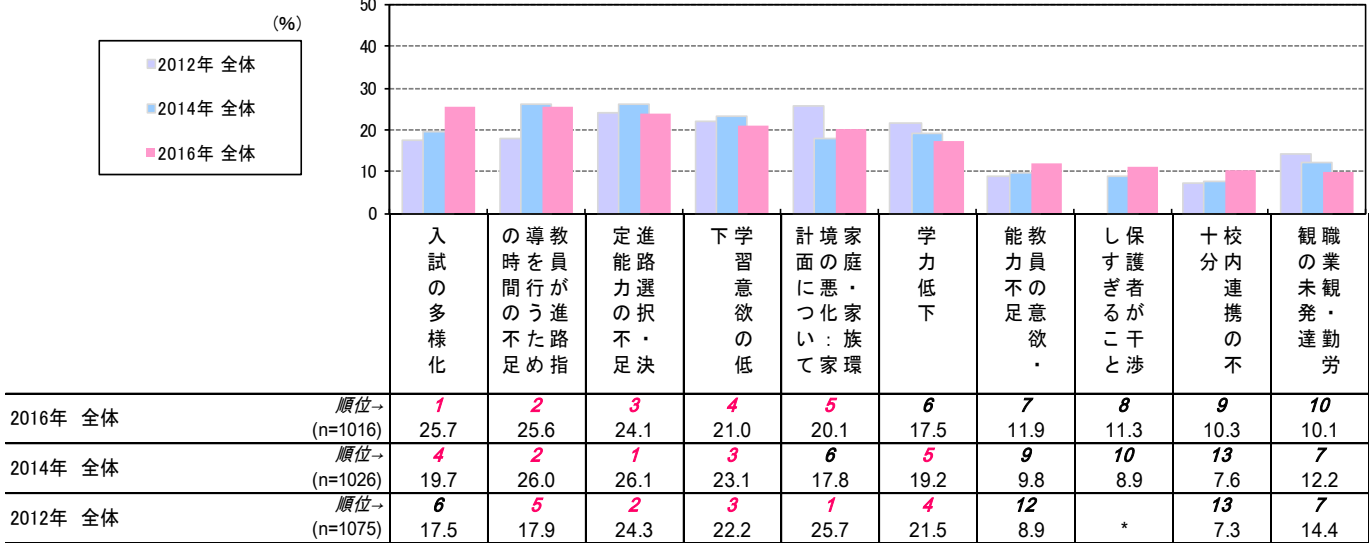
【進路指導の困難の要因】

■ 困難の要因（上位3つ）は「入試の多様化」がトップ（前回4位から上昇）。

2位は前回同様「教員が進路指導を行うための時間の不足」。

- ・ 難しさを感じる要因については、前回調査4位の「入試の多様化」（25.7%）がトップ。2012年調査より2回連続で増加しており、2012年より8.2ポイントの上昇。（2012年17.5%→2014年19.7%→2016年25.7%）

■ 進路指導の困難の要因：上位3つ 【時系列比較】（進路指導を「難しい」と感じている教員／3つまで回答）：上位10項目



※「2016年 全体」の降順ソート ※「*」は該当項目なし ※時系列の全体同士の差の網掛けは起こっていない。
※「教員が進路指導を行うための時間の不足」は2012年までは「教員の進路指導に関する時間不足」

	2016年	2014年	2012年
1位	入試の多様化	進路選択・決定能力の不足	家庭・家庭環境の悪化： 家計面について
2位	教員が進路指導を行うための 時間の不足	教員が進路指導を行うための 時間の不足	進路選択・決定能力の不足
3位	進路選択・決定能力の不足	学習意欲の低下	学習意欲の低下

※調査票では困難の要因となる項目全てを尋ね、その後、最も大きな要因3項目をきいている。本リリースでは最も大きい要因3項目の結果を掲載しているが、全体の結果でみると、1位は「教員が進路指導を行うための時間の不足」、2位は「進路選択・決定能力の不足」、3位「入試の多様化」となっている。

フリーコメント

「入試の多様化」

- ・ 学習指導要領、入試制度が変わっていくことにより、新たな制度、取り組みを追加していく必要があり、個々の生徒への学習・進路指導などを十分に実施するための時間減少につながる。
- ・ 大量の情報の中から、生徒にとって有利になるものを選択するのが困難。学校によって入試が異なるため、ケースごとに対応する必要がある。
- ・ 高大接続改革の号令とともに、ここ数年の学部改組や入試変更はとても教師が把握できるものではない。

「教員が進路指導を行うための時間の不足」

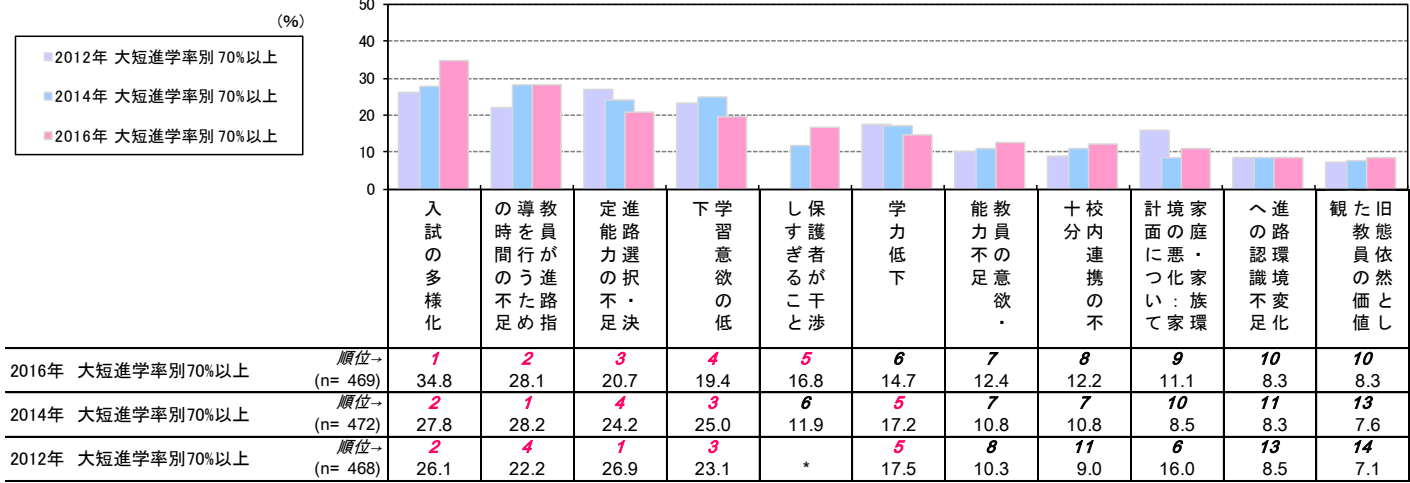
- ・ 教科指導、HR指導、部活指導に多くの時間をとられる。
- ・ 近年授業の進め方（アクティブラーニング等）で時間が取られ進路対策が後手に回る。
- ・ 英語の4技能重視や記述型入試の導入の為に国語の授業・指導方法の変更などの対応に時間がかかる。

「進路選択・決定能力の不足」

- ・ 「行きたい学校」ではなく、「行ける学校」を志望する安全志向が強くなっていること。
- ・ 高卒後の幅広い進路選択において、自分の意志で決めきれなく、保護者や教員に頼る傾向が強い。

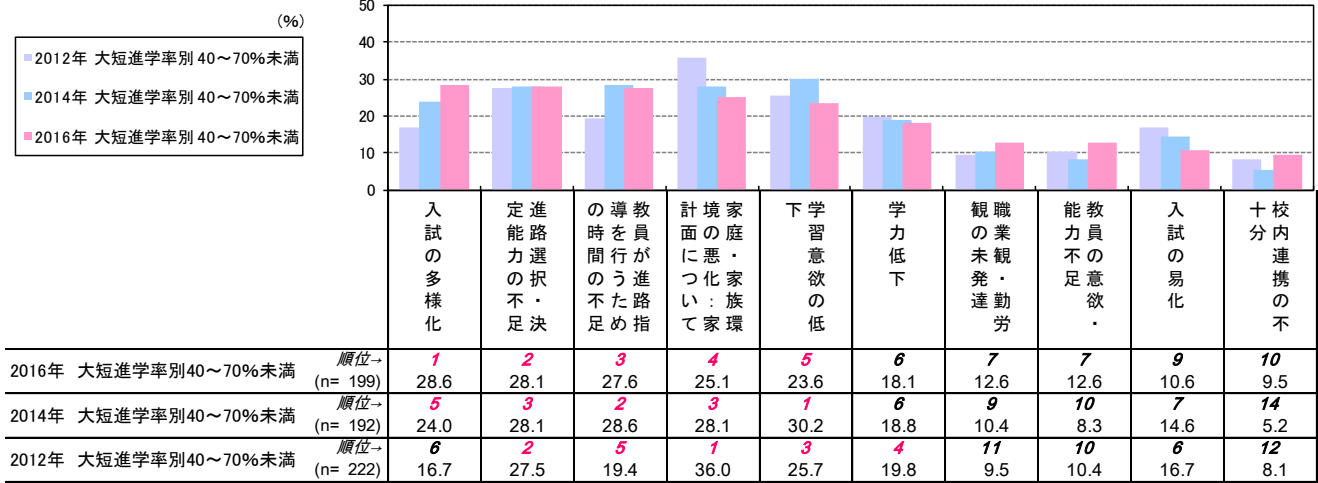
大学・短大進学率：70%以上 「入試の多様化」が前回2位からトップに上昇。（+7.0ポイント）

■進路指導の困難の要因：上位3つ【時系列比較】（進路指導を「難しい」と感じている教員／3つまで回答）：上位10項目



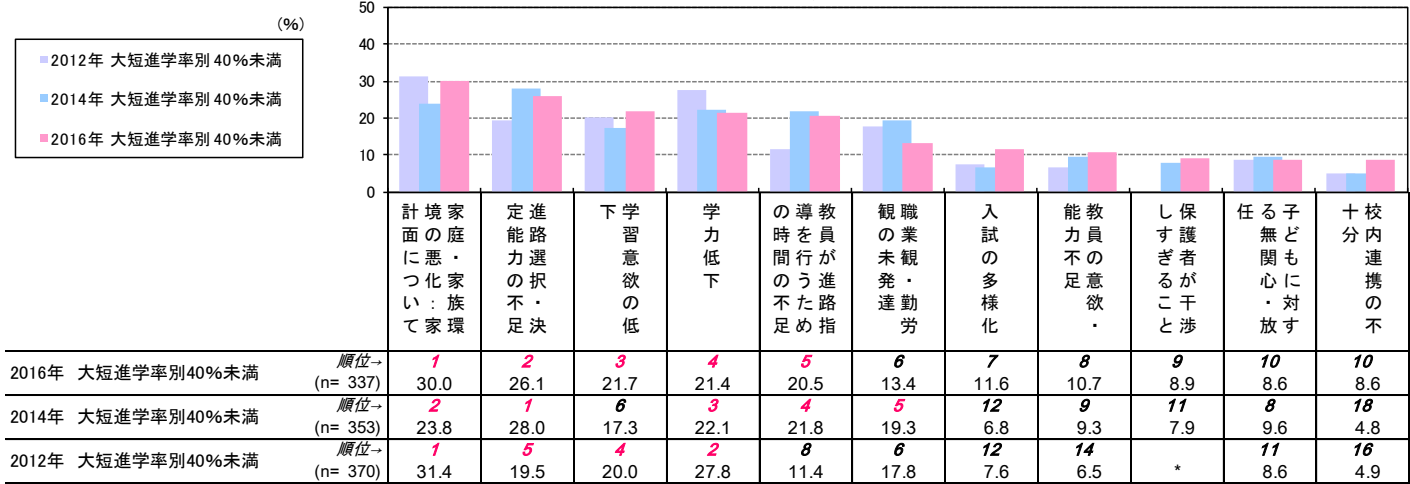
大学・短大進学率：40～70%未満 「入試の多様化」が前回5位からトップに上昇。

■進路指導の困難の要因：上位3つ【時系列比較】（進路指導を「難しい」と感じている教員／3つまで回答）：上位10項目



大学・短大進学率：40%未満 「家計面について」が前回2位からトップに上昇。

■進路指導の困難の要因：上位3つ【時系列比較】（進路指導を「難しい」と感じている教員／3つまで回答）：上位10項目



※2016年の結果で降順ソート ※「*」は該当項目なし ※「教員が進路指導を行うための時間の不足」は2012年までは「教員の進路指導に関する時間不足」

【生徒の進学先として重視する点（大学）】

- トップは「学びたい学部・学科・コースがあること」。
- 高校生の重視する点（進学センサス2016）と比較すると、1位は共通だが、2位は教員は「学生の面倒見の良さ」（高校生29位）、高校生は「校風や雰囲気の良さ」（教員16位）を重視。

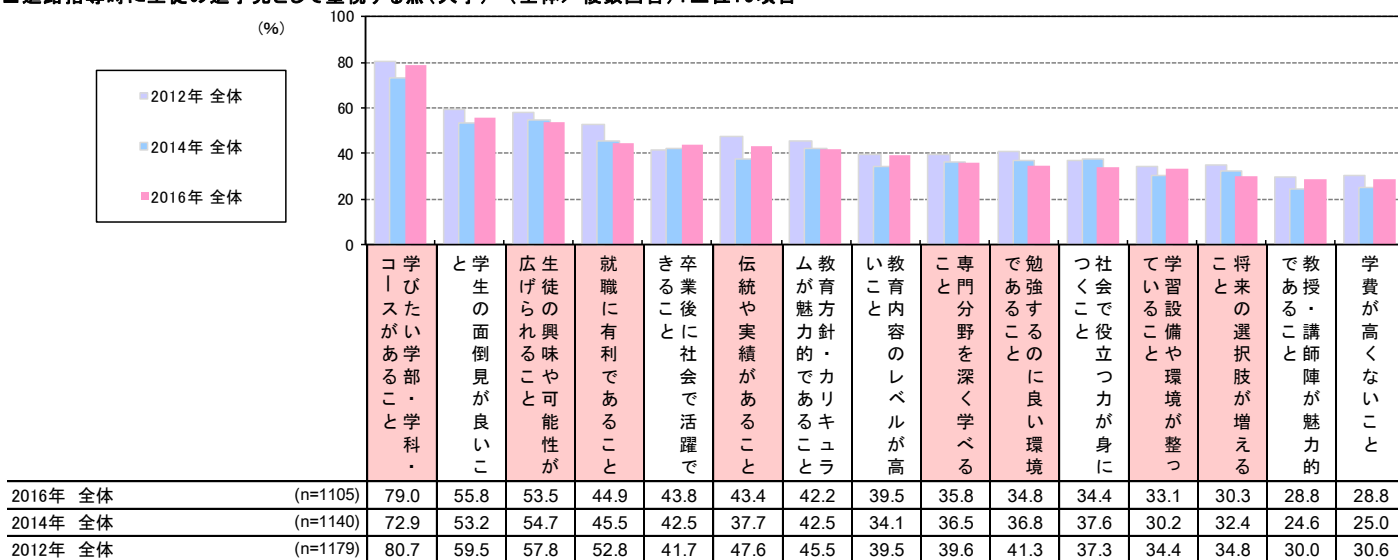
・進路指導時に生徒の進学先（大学）として重視する項目を聞いたところ、下記のような結果となった。

- 1位 学びたい学部・学科・コースがあること (79.0%)
- 2位 学生の面倒見が良いこと (55.8%)
- 3位 生徒の興味や可能性が広げられること (53.5%)

※高校生が志望校選択時に重視する点との比較（2016年4月に実施した『進学センサス』）

- 1位 学びたい学部・学科・コースがあること (65.8%)
- 2位 校風や雰囲気が良いこと (38.2%)
- 3位 自分の興味や可能性が広げられること (35.5%)

■進路指導時に生徒の進学先として重視する点（大学）（全体／複数回答）：上位15項目



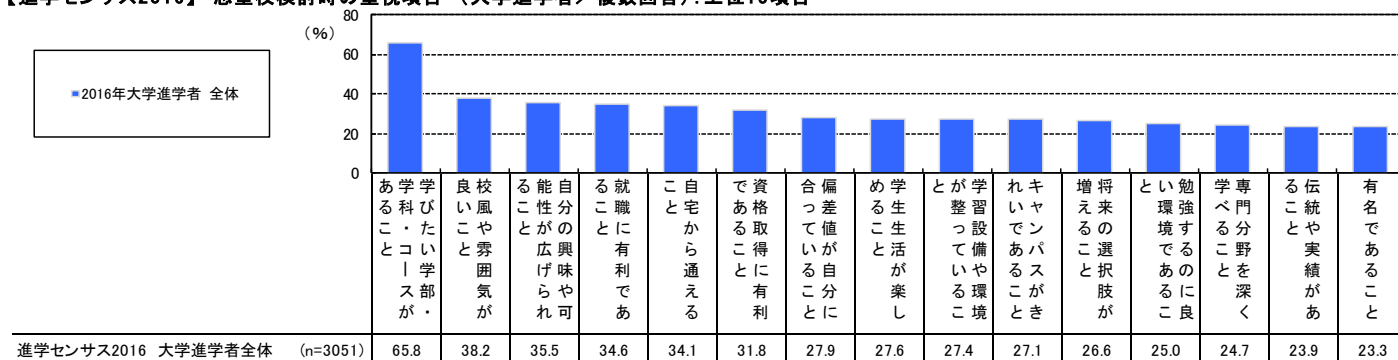
※「2016年 全体」の降順ソート

※高校生が志望校選択時に重視する点との比較

※時系列の全体同士の差の網掛けはおこなっていない。

■参考：高校生が志望校検討時に重視する点：進学センサス2016

【進学センサス2016】志望校検討時の重視項目（大学進学者／複数回答）：上位15項目



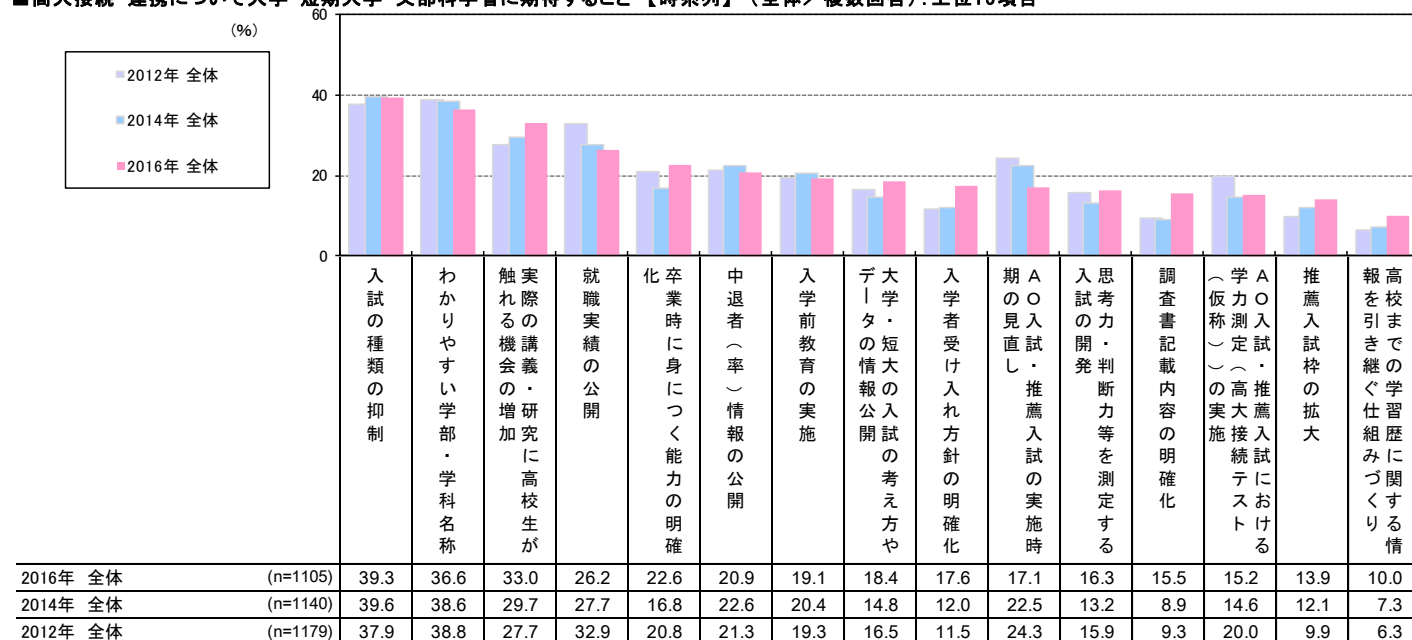
※「進学センサス2016 大学進学者全体」の降順ソート

【大学・短期大学・文部科学省に期待すること】

- トップは「入試の種類の抑制」、
2位に「わかりやすい学部・学科名称」（どちらも前回同様）。
「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」が増加。

- ・高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待することは、前回調査同様、1位が「入試の種類の抑制」（39.3%）、2位は「わかりやすい学部・学科名称」（36.6%）となった。
- ・3位は「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」（33.0%）で、2012年調査より5.3ポイント上昇している。（2012年27.7%→2016年33.0%）

■高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待すること【時系列】（全体／複数回答）：上位15項目



※「2016年 全体」の降順ソート

※時系列の全体同士の差の網掛けはおこなっていない。

【将来必要とされる能力・現在生徒が持っている能力】

- 将来社会で必要となるにもかかわらず、現在高校生に備わっていないと感じている能力は、“主体的に行動する力”。
- 一方、実際に持っている力としては、「規律性」「傾聴力」など、“チームで働く力”が高い。

※“将来社会で必要となる力”の選択肢には、経済産業省による「社会人基礎力」を使用

・将来、社会で必要とされる能力としては高いが、実際に高校生が持っている能力は低く差が大きいのは「主体性」「課題発見力」「実行力」など“主体的に行動する力”。

・生徒が将来社会で働くにあたり、必要とされる能力

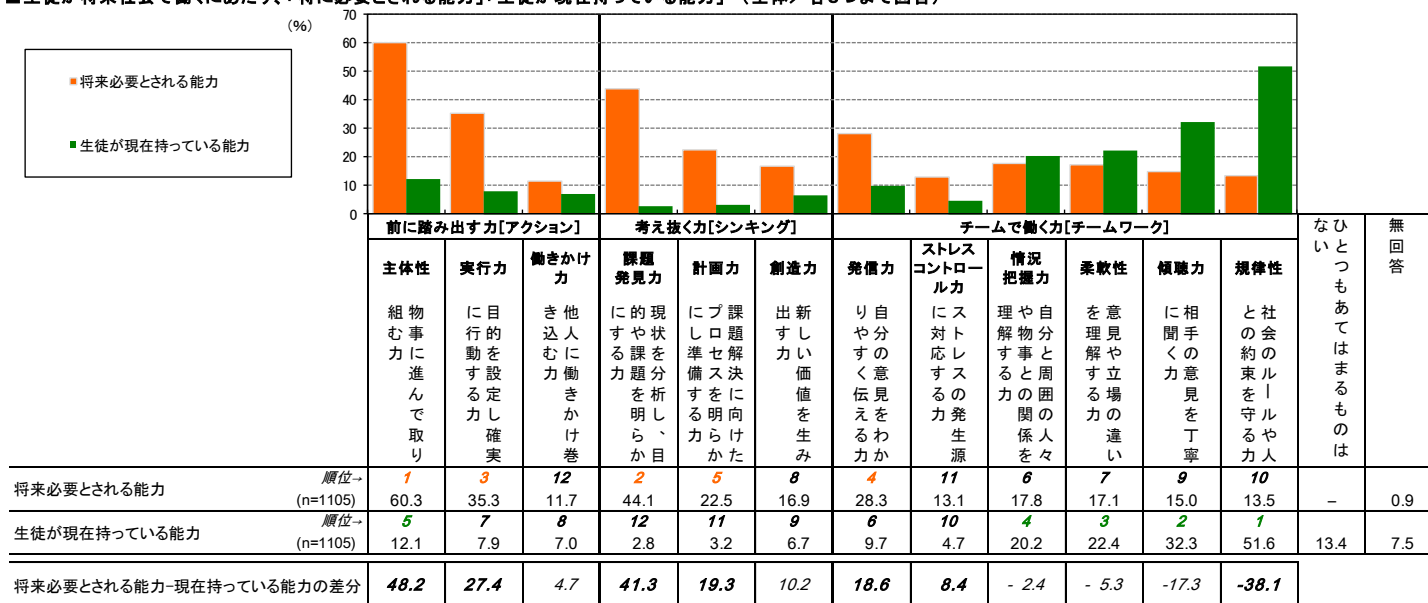
1位：主体性（60.3%） 2位：課題発見力（44.1%） 3位：実行力（35.3%）

・生徒が現在持っていると思う能力

1位：規律性（51.6%） 2位：傾聴力（32.3%） 3位：柔軟性（22.4%）

※高校生と高校生の保護者の意識も同様の傾向がみられる（別調査）。

■ 生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」「生徒が現在持っている能力」（全体／各3つまで回答）



※カテゴリーごと「将来必要とされる能力-現在持っている能力の差分」の降順ソート

■ 参考：高校生と高校生の保護者の意識：

高校生：リクルート進学総研「高校生価値意識調査2015」／保護者：一般社団法人全国高等学校PTA連合会・リクルート進学総研「高校生と保護者の進路に関する意識調査2015」

	高校生	保護者
・将来社会で必要とされると思う能力 1 位	<u>主体性</u>	<u>主体性</u>
・現在高校生が持っていると思う能力 1 位	<u>傾聴力</u>	<u>規律性</u>